

資料④

遊びや場面		知識及び技能の基礎		思考力、判断力、表現力等の基礎				学びに向かう力、人間性等					
ごっこ遊び (ままごと遊びからお店屋さんごっこへ)		・ お店に必要なものに気付き、様々な材料の性質を活用しながら必要なものを工夫して作る。 ・ 日常生活の中である文字や数字を使ってみるとお店が本物らしくなり、楽しくなることを知る。		・ 保育者や店員の姿を観察して真似ることであいさつや言葉、動きを覚える。 ・ やりたいことが友達と異なるときには、折り合いをつけながら様々な材料を使い、お店に必要なものや必要な決まりを相談して決める。				・ つくりたいお店のイメージを友達と共有し、役割分担をしながらごっこ遊びを展開する。 ・ 相手の気持ちに気付き、自分の意見との折り合いがつけられるようになる。					
0 歳	・ 身近な大人の動きを目で追ったり言葉を聞いたりする。	【接続期】 5 歳児後半	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康	自立心	協同性	道徳性	社会生活	言葉	思考力	自然	数量・図形	感性と表現
1 歳	・ 人形をおんぶしたりあやしたりするなど保育者の真似を楽しむ。 ・ ままごとセットや身近なもので保育者との見立て遊びを楽しむようになる。			○	◎	◎	○	◎	○		○	○	
2 歳	・ 保育者や周りの子となりきり遊びやごっこ遊びを楽しむようになる。		遊びや学びのプロセス										
3 歳	・ 保育者や友達とままごと遊びやお店屋さんの簡単なやり取りを楽しむようになる。		環境・援助のポイント										
4 歳	・ 自分の役割を決めたお店屋さんごっこで友達同士のやり取りを楽しむようになる。		・ 見立て遊びやなりきり遊びを十分楽しめるよう、自由に選択できる用具や素材、玩具を用意する。 ・ イメージの違いや相手の気持ちや方向性のズレが生じた場合、落ち着いた環境で話し合い、お互いの気持ちに気付けるようにする。										
5 歳前半	・ お店に必要な道具などに気付き、話し合い、様々な材料を使用し協力してつくるようになる。		小学校のスタートカリキュラム	生活科「あきのおもちゃであそぼう」 図画工作科「ごちそうパーティをはじめよう」									

